

令和4年度 第3回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 令和4年9月13日(火) 14:00~15:15
- 2 開催場所 小平市中央公民館 講座室2
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 11名(うちZoom参加者2名)
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、分館担当係長7名
(上水南、花小金井南、鈴木 欠席)
- 4 傍聴者 1名
- 5 配布資料 (1) 令和4年度 公民館定期講座等実施状況表・・・・・・・・・・資料1
(2) 令和4年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・・・・・・資料2
(3) 令和4年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・・・・・・資料3
(4) 令和4年度 夏休み学習室集計表・・・・・・・・・・資料4
(5) 利用者・利用団体ヒアリング・・・・・・・・・・資料5
(6) 令和4年度 第2回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・・・・・・資料6
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 令和4年度公民館定期講座等について
(3) 東京都公民館連絡協議会について
①職員部会について
②委員部会について
③研究大会について
(4) その他
①夏休み学習室について
②関東甲信越静公民館研究大会について

会議の概要

1 館長報告

- (1) 小平市議会9月定例会における公民館に関連する一般質問の内容について

山浦まゆみ議員より「中央エリアは市民活動を停滞させないインフラ整備のためにあらゆる創意工夫を」の質問について

- ① 中央エリアの整備に関するオープンハウスの結果については、2日間で延べ109人が参加。オープンハウスの来場者に対して行ったアンケートに回答された9割以上の方が、今後のワークショ

ップやオープンハウスに参加を希望されており、本事業に対する高い関心がうかがえた。

- ② 福祉会館の市民ホールと和室ホール、中央公民館のホールと和室の過去5年間の稼働率について、コロナ前の平成29年度については、市民ホールは81.4%、和室ホールは39.1%、中央公民館のホールは65.6%、小さい和室は51.0%、大きい和室は63.4%。
- ③ ホールの数が減る可能性について、これまでに寄せられた意見や過去の稼働率から、ホールの利用については高いニーズがあるものと捉えている。必要な数や面積の精査は今後の検討となるが、利用状況を分析し、市民活動になるべく支障が出ない範囲での集約化や共用化を検討していく。
- ④ これまで収集された意見の反映について、平成30年度から令和元年度にかけて中央エリアの整備に関するワークショップや利用者ヒアリング、アンケート等を行い、寄せられたご意見等を踏まえ、令和元年12月に基本計画を策定した。その後、基本計画のコンセプト等を具現化するため、設計事業者を選定し、中央エリア全体の配置や新建物のレイアウト等についての提案を受け、本年2月の市民説明会や7月のオープンハウスでお示しした。今後の市民との意見交換の場の設定だが、開催予定のワークショップにおいては、設計事業者の提案に対して行った市民アンケートや利用者ヒアリング、また、跡地利活用に関して実施した事業者や大学等へのヒアリング結果などを踏まえた市としての案をお示しし、グループワークなどの手法でご意見をいただくことを考えている。その後もアンケートや利用者ヒアリング等を行い、修正案をお示しする等の段階を経て、令和5年6月の基本設計完成に向け、検討を進める。
- ⑤ 2月20日に開催された市民説明会において設計事業者から「公共サービスのあり方のモデルになり得ると考えている」との発言があった。この「発言を実現させるための方策」について、事業者からは、行政だけではなく、市民活動と民間活力が融合した形でエリアをデザインし、魅力的な空間を目指すとの提案がなされており、この提案内容が公共サービスのあり方のモデルになり得るとの意図であったとうかがっている。市の基本計画においても、市民の多様な活動や交流が地域課題の解決につながるような施設を目指すことや、公民連携の可能性の検討について示しており、こうした計画内容に基づき、事業者の提案が行われていることから、中央エリアの目指す方向性について、市と設計事業者のイメージは共有されているものと認識している。今後とも基本計画に基づき、また、事業者の提案を踏まえ、生涯学習、及び集会室機能と行政機能の複合化により、市民が交流や仲間づくりをし、また地域課題の担い手が育つような場づくりを目指していく。

と市長より答弁があった。

(2) 高校生事業企画委員会の様子について

第2回目を7月22日(金)、第3回目を8月17日(水)、第4回目を8月20日(土)に開催した。

参加した高校生から示された関心がある、取り組んでみたいテーマとしては、

- ・お金の使い方や流通など「お金の動き」について、
- ・地域の方と交流を深めて行うバザー、百人一首、昔遊び、地域清掃について、
- ・SDGsの掲げる「誰一人取り残さない」をキーワードに大学院生らが中心となって取り組んでいる「EMPOWER Project (エンパワープロジェクト)」が考案した、「協力が必要な時は、お声を！」の気持ちを表すマークである「マゼンタ・スター」について、

などが挙げられている。今後は、これらのテーマについて、さらに議論を深めて、事業の実現に向けて取り組んでいく。

(3) 花小金井南公民館の運営について

現在、館長が体調不良のため、不在となっている。このため、中央及び分館で役割分担をしながら、講座の運営、事業企画委員会、部屋割り調整会議など、支障をきたさないよう、運営していく。

なお、講座については、今年度予定されていた講座の約7割程度の開催を目指しているところです。

(4) 秋の公民館まつりについて

中央公民館につきましては、サークルフェア2022を、11月5日（土）、11月6日（日）に、開催予定である。昨年度と同程度の30団体程度が参加する見込みである。

9月17日（土）にサークルフェア実行委員会全体会を開催し、その後、市報やチラシなどを通じて開催の周知を行っていく。

続いて、分館における公民館まつりについては、

小川西町公民館は、10月8日（土）・9日（日）、上水南公民館は、10月22日（土）・23日（日）、花小金井北公民館は、10月29日（土）・30日（日）、小川公民館は、11月5日（土）・6日（日）、津田公民館は、11月19日（土）・20日（日）、鈴木公民館は、11月26日（土）・27日（日）、それぞれ開催する予定である。これらの館においては、新型コロナウイルス感染症の影響のため、3年ぶりの開催となる。現在、各館においては友の会等を中心に、実施に向け、作品展示・舞台発表・体験プログラムの提供・音楽会の開催など具体的な調整を行っている。新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少傾向に入っているものの、依然として高く推移している状況から、感染対策に留意しながら実施に向けて努めていく。

(5) 資料5「中央エリアの整備に関する利用者・利用団体ヒアリング」について

公共施設マネジメント課では、資料のとおり3日間にわたり、利用者・利用団体のヒアリングを行うとの報告があった。ヒアリングは事前申込制とし、参加者数名のグループ単位で設問を設定して、ご意見を伺う方法で検討している。委員の皆様におかれましては、是非ご参加いただき、ご意見をお聞かせいただければと思う。また、各公民館で活動されている皆様にもご案内いただき、多くの方にお申込みいただけるよう、周知についてご協力いただければと思う。

チラシは各公民館にも配架している。申込はファクシミリ、メール、郵送、持参いずれでも可能である。

(質疑応答)

上原委員 中央エリアを整備して使い勝手を良くするのはいいことだが、使い勝手が良くても交通の便が良くないのはどうか。高齢者が増えるので、交通の便が良くないと行きたくなくなる。うまい交通手段を見つけて、皆さんができるだけ来館できるように、また来館し易いようにす

るのも大事ではないか。建物を立派にするのも大事だが、そのようなことも考えてもらいたい。

館長 公民館単体で回答するわけにいかないが、市全体として交通の便の問題は課題となっており、にじバスなどのコミュニティタクシーの検討がされている。ただ、このコロナ禍で利用者が減り、実証実験や実施に向けての予定が遅れていると聞いている。また、中央エリアを設計していく段階でやはり交通の便についての話題も出ており、皆さんにより良い利便性を提供できるかということも話題になっている。これからも、公民館運営審議会でのご意見は担当部署に伝えていきたい。

久米委員 花小金井南公民館について、館長がいないために講座が進んでいない。館長不在で7割の講座が本当にできるのか心配である。代替りの人員など考えているのか。

館長 花小金井南公民館については、中央公民館の職員と分館長とで今年度の講座を進めていて、10月から順次講座を開設する。これから開催報告をお伝えすることができると思う。また、事業企画委員会は中央公民館の職員が今年度の委員会を進めている。あと部屋割調整会議についても中央公民館の職員が進めている。その他、職員の配置が必要な場合は、中央や分館長などの職員を派遣して対応している。

久米委員 館長代行とか専用で代理の人をつけた方がいいのではないかな。そのようなことは考えているのか。

館長 人事の話しになるので、即答はできない。館長代理は難しいと考えている。

田尻委員 高校生事業企画委員会で、お金の話題が出たようだが、「契約」についても学ぼう伝えてほしい。また、コロナ禍で薬物乱用に関する課題もある。「薬物」だけでなく「クスリ」との上手な付き合い方についても知識をつけてほしい。

館長 「お金」については、キャッシュレスが増えてきているので、実際のお金の勉強をしておいた方がいいというところから発案された。「契約」・「クスリ」についても大事な内容だと思うので学校でも学ぶと思うが、機会があれば伝えたいと思う。ただし発案は、高校生の発案を尊重したい。

2 令和4年度公民館定期講座等について

(質疑応答)

久米委員 上宿公民館の文化・教養講座「はじめての楽しい中国語会話」について、定員12に対して応

募が1か。

上宿公民館 現在10名まで増えた。

田尻委員 市内の小学校で、中国からのお子さんで一言も日本語がわからない状態でクラスに転入してくると聞いたことがある。是非この「中国語会話」の講座からサークルになって、こういったお子さんやご家族の方が地域で孤立しないといいと思う。

海老名委員 委員に質問だが、中国の児童が増えているというのは、ある地域に限定されていたり、ある企業に限定されていたり、詳しい状況は分かるか。また、どこからの情報か。

田尻委員 小平市にいろいろな国の転入者が増えているのは伺っていて、そのお子さんたちが日本に馴染むにあたって言葉の問題で学校がとても苦勞していると聞いている。学校との情報交換をする機会があり、その中で出てきた話題である。

細江委員 児童館に中国人のお子さんが来たり、夏休みに来日した祖父母が働いている両親の代わりに孫を連れてくるが、会話がつながらないことがあると聞いている。

古家委員 前回の委員の時と比べて、講座や講師が多様になったと感じている。事業企画委員会があることで刺激があったのかと思う。職員や事業企画委員会の委員の方が講師の人を見つけてくる力が素晴らしいと思う。地域と一緒に公民館を作っていると思う。

久米委員 コロナで定員が少なく、講座に申し込んでも外れてしまう。事業企画委員会の委員が、委員の関係しているサークルや関係者に声掛けしているという話を聞いた。その結果、それほど興味のない人が当選し、本当に受講したい人が落選するという話を聞く。応募の際にサークル化したいかどうか聞いてみてもいいのでは。全てではないと思うが、事業企画委員会委員の私物化のように感じた。委員の成り手がないとか、アイデアも出尽くしているという話も聞いているので、事業企画委員会委員の総入れ替えをどこかの館で考えてみてはどうか。

多田委員 津田公民館の地域支援講座「こども食堂について知ろう」は5回であるが、多くないか。どのような組み立てで5回となるのか。

津田公民館 子ども食堂の運営者2団体からの講義が1回ずつで計2回、運営体験が1回ずつで計2回、子ども食堂の前段の居場所の説明を社会福祉協議会より1回で合計5回となる。

上原委員 こちらから提案があつて受けるのは館長になると思うが、きちんとタイアップされているのか。新しく募集するときもよく考えないと定着しない。リーダーによって活動が変わる。タイアップをもっとやるべきではないか。1つの考え方をもって皆さんの意見をききながら終焉

させていく。要求があればやるのか、語学の問題も簡単には軌道には乗らないと思う。やめていく人もいる。そういうところも掘り下げて事務局として考えてほしい。既存団体の強化など全体の活性化につながるのではないか。市報の募集広告が今は少ない。

田尻委員 花小金井南公民館のジュニア講座「ドローンを飛ばそう」について、災害などのボランティアにドローンを飛ばせる人が増えるとありがたい。将来的にサークル化して災害ボランティアとして人の入れないところにドローンを飛ばしてくれるようになってくれるといい。育ててほしい。

館長補佐 昨年度も実施している。春休みに実施して非常に評判が良かったため、今年も同じ講師に日程調整をしており1月か2月ごろの予定で鈴木公民館の館長が調整を進めている。

堀内委員 花小金井北公民館では、40人を超える応募の講座が3つあった。ジュニア講座「たのしく英語であそぼう」は、国際交流協会でも類似の講座があるが、時間や場所が限られているので、各公民館で語学講座を行うことは意味がある。文化・教養講座「水彩で描こう」については、8回を4回ずつで募集すれば多くの方が受講できる。文化・教養講座「プログラミング講座(スクラッチ)」は小学生の保護者が注目している内容なので、他の公民館でも実施してほしい。中央公民館のジュニア講座「ジュニア大学②パティシエコース」など定員より応募人数の多い講座は今後回数を多くするなり、定員を増やすなど検討していいと思った。事業企画委員会があることで講座が多様化した気がするが、委員以外の人からの意見を取り入れられる仕組み、例えば、メールや意見箱などが広がっていくと多くの方に意見を聞いてもらえていいと思う。

海老名委員 事業企画委員会に傍聴した結果のレポートをA4用紙に1枚にして事務局にメールで送付した。委員の提案を相談する先はどこなのか。定員について話があったが、小川西町公民館の健康づくり講座「バードウォッチングで外に出よう」については、春は落選したが、秋に再度募集するという手紙をもらい、丁寧に対応してもらった。サークル化について、すべての講座を終了したらサークル化するだけではなく、既存のサークルに結びつけるアクションしてもいいのではないか。

会 長 委員個人のご意見などは、事務局または、会長まで申し出て欲しい。どこで協議するか事務局とも相談する。また、サークル化についてだが、現在も講座終了後にサークル化に参加しなければ、公民館の窓口で類似の団体を紹介してもらえれば良い。

長澤委員 定期講座等実施状況表について、終了したもの、日程が決まっているもの、日程がまだ決まっていないものが混在して分かりにくい。次に、講座区分について、いつこの区分となったのか、また、これで十分なのか検討したか。最後に講師謝金の予算について教えて欲しい。

館 長 定期講座等実施状況表については、検討させていただく。講座についての区分は、事業企画委員会が発足した頃、委員会で企画する講座を7つの区分にすると、すべての講座が網羅できるという事で整理されたものと思っている。その他、正確には区分ではないが、公民館にあまり足を運ばない方向けに講演会や音楽会などを実施している。また、区分がこれでいいのか十分なのかとの議論は今後も必要と考えている。講師謝金について、令和4年度の予算額では、分館で各館約80万円、中央で約400万円である。

細江委員 パソコンやスマホ関連の講座について、小平IT推進市民グループ、小平シニアネットクラブ、東京スマホ研究会の講師の方に依頼しているようだが、小平市民活動ネットワーク（シムネット）のオンラインサポート研究会の方にも依頼してみてもどうか。スマホ関連の講座は応募者も多いし、高齢者のスマホに関連した被害などの課題もあり、需要は高いと思う。シムネットは高齢者施設にも出張して講座を実施している。

会 長 事業企画委員会の場で、分館長から提案していただいたらいいと思う。

鈴木委員 3館の事業企画委員会を傍聴した。今年度の講座も含めて、上手く運営していると感じた。先ほどから、講座の定員について、委員からの話が多く出ている。定員より応募が多い場合、上期（9月まで）の講座を下期（10月以降）でも開催することができるのか、予算があるので難しいか。あるいは次年度について、検討できるか。また、サークル化の推進について、津田公民館のように、抽選漏れの方にも連絡するなど工夫してほしい。

館 長 コロナの関係もあって、定員数が少なくなっている。講師とも相談しながら、定員を決めているが、このような状況が生じている。早くコロナが収束して、以前の状態に戻るのを願っているが、上半期に実施したものを下半期に実施することは、予算的に難しい部分があり必ずしもお約束ができないのが現状である。次年度に向けて、今年度評判の良かった講座をどのように対応するのか検討する必要がある。各館の事業企画委員会委員と調整が必要だと思う。研究課題として受け止める。

3 東京都公民館連絡協議会について

(1) 職員部会について

資料配布のみ。

(2) 委員部会について

委員より資料3について説明した。

研修参加者を募るが1人のみの希望であったため、後日、メールにて再度募ることとした。

(3) 研究大会について

令和5年2月4日（土）当市にて開催する予定、詳細はもう少し時間がかかる。

4 自主研修会について

10月11日（火）は、事業企画委員会、公民連についての学習会（意見交換）。

12月13日（火）の講演会の講師は、長澤先生に依頼することが決定した。テーマについては、後日、委員からの要望を伺い、10月の審議会の前に長澤先生と打ち合わせを行う。正・副会長と事務局からは、公民館の新しい取組について、他市の例をいろいろ伺いたいと思っている。

古家委員 12月の講演会は、公民館運営審議会委員だけと考えているか。

事務局 審議会委員は対面が原則で、事業企画委員会や公民連はオンラインを考えている。

5 その他

(1) 夏休み学習室について

事務局より資料4について説明した。

(2) 関東甲信越静公民館研究大会について

オンデマンドは誰でも視聴可能、オンラインでの参加は参加費の負担がある。公費で負担するので個人での申し込みはしないように依頼、これも後日希望者を募る。

次回は、11月8日（火）午後2時より、中央公民館にて開催する。